

## 肉用鶏飼養農場における鶏アデノウイルス感染症発生事例

三八地域県民局地域農林水産部 八戸家畜保健衛生所

○谷地村結未 太田智恵子

2019年5月、肉用鶏農場において17日齢雛の斃死が増加したため病性鑑定を実施。剖検では、肝臓退色、筋胃びらん（AGE）が認められ、病理組織学的検査では、肝臓、筋胃、脾臓に好塩基性核内封入体（封入体）を確認。ウイルス学的検査では、肝臓及び筋胃から鶏アデノウイルス（FAV）遺伝子を検出。塩基配列解析の結果、FAV-8b型（8b型）と同定。8b型は、近年国内で報告の多いFAV-1型（1型）やFAV-2型と異なり、比較的海外で報告が多い。当該農場が所属するインテグレーション（インテ）では2010年に8～11日齢の種鶏雛でFAV-8a型（8a型）、2015年に15日齢の肉用雛で1型のFAV単独感染が発生。3事例を比較するといずれも若齢発生。主訴は1型が発育不良、8a及び8b型は斃死増加。病理所見は1型が筋胃において、8a及び8b型は肝臓、脾臓、筋胃において封入体を確認。主な病変は、1型がAGE、8a及び8b型は封入体肝炎（IBH）で、既報の症状と一致。当該インテの入雛形態は、自社及び指定契約農場に加え、社外種鶏場から供給された種卵も自社又は社外孵卵場で孵化する複雑なルート。種卵の供給源が複数存在することは、血清型の異なるFAVの伝搬を容易にするとされており、当該インテの複雑な入雛形態がFAVを散発させる要因になっていると考察。加えて、入雛後の環境ストレス等が発症の引き金になったものと推察。